

釜石の歴史

よもやま話

16

釜石の鉄学編

(10)

問い合わせ
市世界遺産課

22-8846

釜石製鉄所の歴史 (6)

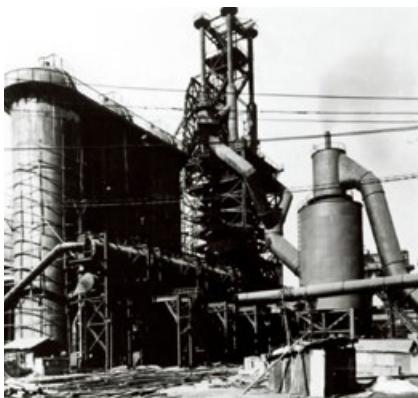
日本製鐵株式会社の設立

第1次世界大戦が終了した大正8年(1919)年頃から「小資本で分立することは不利であり、資金調達の便や、鉄鋼単価の引き下げ、大規模な鉱源開発を図るためにも製鉄事業の統一が必要」と提案されるようになりました。官民ともに合同に消極的でしたが、昭和5年(1930)年からの世界大恐慌を契機に、緊縮財政となる中、補助金を受けている製鉄企業への批判が高まります。そのような背景から昭和8年(1933)年、第64回通常議会で、斎藤実内閣が提出した「日本製鐵株式会社法」が可決され、昭和9年(1934)年2月1日に日本製鐵(株)が設立しました。製鉄、製鋼分野の主要会社全部を合同する予定でしたが、足並みが乱れ、1所5社でスタートし、のちに2社が加わりました。

釜石鉱山(株)は日本製鐵(株)への合間に参加しましたが、製鉄所のみが傘下となり、鉱山部門や山林部門は切り離されました。昭和14年(1937)年には日中戦争が勃発し、各製鉄所で大規模な拡充画が進展するに連れ、原料の供給を確保する必要があり、昭和14年

(1939)年に日鉄鉱業(株)が設立されます。この会社には鉱山部門のみが所属し、山林部門が切り離されました。山林部門は三井合名会社農林課の傘下となり、日東拓殖農林会社、さらに三井農林(株)となりました。ちなみに「日東紅茶」で有名な会社です。

	所在	合同参加	高炉	日産(t)	平炉	年産(t)	
合同参加	八幡製鐵所	福岡	昭和9年2月	8	3,394	31	1,399,000
	輪西製鐵(株)	北海道	昭和9年2月	4	675	1	60,000
	釜石鉱山(株)	岩手	昭和9年2月	2	720	4	141,500
	三菱製鐵(株)	朝鮮	昭和9年2月	3	800	1	119,800
	富士製鋼(株)	神奈川	昭和9年2月			1	64,000
	九州製鋼(株)	福岡	昭和9年2月			3	119,800
	東洋製鐵(株)	福岡	昭和9年3月	2	605		
	大阪製鐵(株)	大阪	昭和11年5月			1	70,000
	東海鋼業(株)	福岡					
	小倉製鋼(株)	福岡				5	12,000
不参加	浅野造船(株)	神奈川		1	186	2	105,000
	日本鋼管(株)	神奈川				2	290,500
その他						41	814,000
合計			20	6,380	92	3,303,600	



第10高炉(昭和14年)



上中島社宅街(昭和12年)
国道からの入口に川が流れ、橋が架けられています。



上中島社宅街入口の現在

製鉄所の設備拡張工事
日本製鐵(株)は国際競争力を持つ会社として鉄鉱設備の拡充を目指し、次にわたる設備拡張計画の実施に踏み切りました。この中で、日本最大級の鉄鉱山である釜石鉱山に隣接し、新たに開発が盛んになってきた夕張炭鉱からの石炭輸送が容易な釜石製鐵所は、主要な製鉄所として銑鋼一貫設備の充実を図るため、主要施設の建設が第1次、第2次計画に集中しました。

製鉄部門では第10高炉が建設され(竣工は昭和13年)、それに伴い、コークス炉や焼結炉が増設されました。製鋼部門では第二製鋼工場や大型工場が建設され、それに伴い、大渡川の対岸岩井町に鋳物工場や工作工場が移転増設され、五ノ橋に平行

して中島橋が架けられました。また原材料や製品の輸送のため南桟橋も増強されました(長さ118・2m↓230m、幅18m↓30m)。現在も使用されている製鉄所本事務所もこの時期に建設されました(着工昭和11年、竣工昭和16年)。

社宅の建設

製鉄所の拡張に伴い、構内社宅は撤去され、さらに従業員の増員のため新たな社宅が必要になりました。上中島、小佐野、小川に社宅を建設するため、甲子川や小川川の川原の埋め立てが行われました。「上中島」は「上中妻」であったものが転化したもので、小佐野は小川、定内(佐田内)、野田の町名を合わせて名づけられました。

して中島橋が架けられました。また

原材料や製品の輸送のため南桟橋も

増強されました(長さ118・2m

↓230m、幅18m↓30m)。現在も

使用されている製鉄所本事務所もこ

の時期に建設されました(着工昭和

11年、竣工昭和16年)。

